

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 153	小学校	算 数	算 数	5 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 510 511	小学算数 5年上 小学算数 5年下		

## 1. 編修の基本方針

—子どもたちに「**真の生きる力**」をはぐくむ算数の学び—

数学的な見方・考え方を働かせた

「わかる・できる・活かす・楽しむ」数学的活動の充実により

確かな資質・能力が育つように…

私たちはこの教科書が、そのたすけとなることを心から願って編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するため、次のような基本方針で編修しました。

基本方針

1

筋道立てて考え表現するための  
学び方をはっきり示します

～主体的・対話的で深い学びの実現～



基本方針

2

生活や学習の基盤となる  
算数の礎をきっちり築き上げます

～基礎的・基本的な力の確実な定着～



基本方針

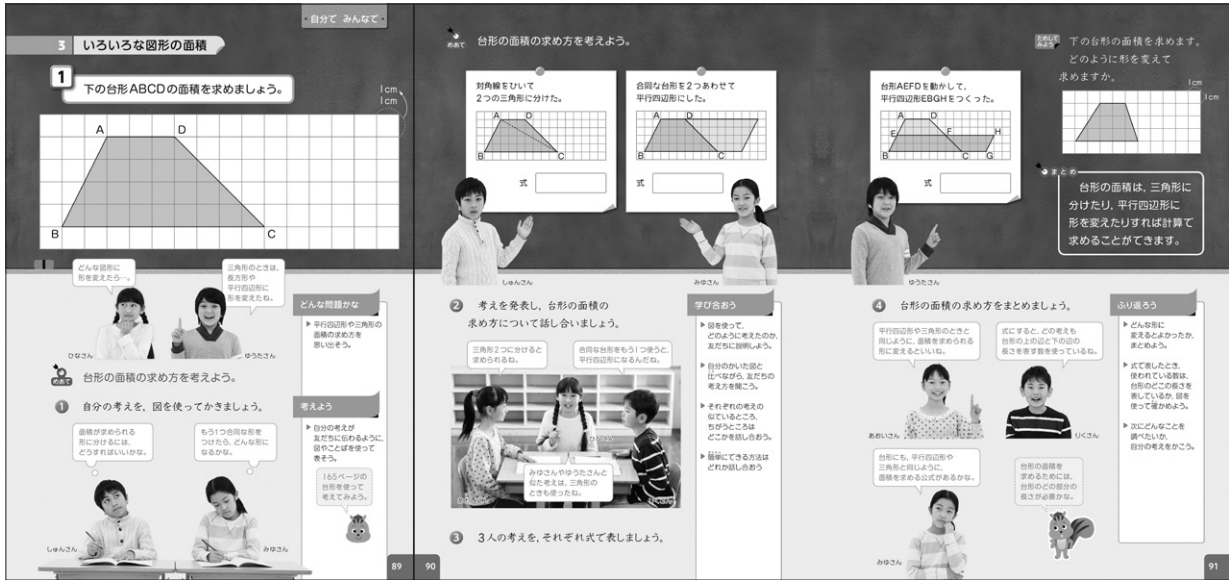
3

算数の楽しさやよさを  
しっかり感じられるようにします

～生活や学習への活用場面の充実～

① 内容に即した学び方と板書例をセットにした学習場面を設けています

・「自分で みんなで」は、問題解決型の学習過程のポイントを、各ページの右側に具体的に示すことで「子どもによる主体的な算数の学び」を実現できるようにしています。このような場面では、数学的な表現を用いて筋道を立てて考えたり、伝え合ったりする問題解決型の学習の手順や着眼点とともに、めあてやまとめも示し、一連の学習活動として捉えられるようにしています。さらに、学習活動の展開が板書例としても見ることができるよう紙面構成にすることによって、指導者の授業づくりの参考となるようにしています。



「自分で みんなで」(下 p.89～91)

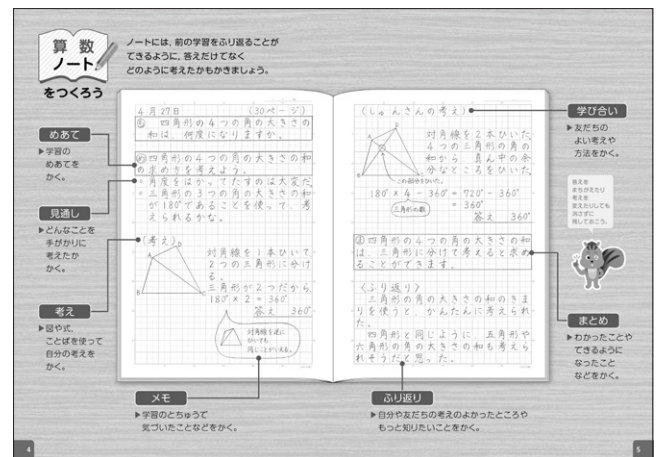
② 数学的な思考力や表現力を育成するポイントを明示しています

・数学的な見方・考え方を働かせ、見通しを立てたり、筋道立てて考えたり、考えたことを話し合ったりするための着眼点を「カギマーク」で示し、数学的な思考力や表現力の育成を図るようにしています。

③ 算数の学習の進め方とノートのかき方を例示しています

・上巻巻頭には、問題解決型の学習過程を掲載した「さあ、算数の学習を始めよう」を設けています。前学年で学習した算数の問題を用いた例を示すことによって、これからの算数の学習をどのように進めていけばよいのかがわかり、算数の学び方が身に付きます。

・「算数ノートをつくらう」では、子どものノートの記述例を示しています。考えた過程や学習のまとめ、振り返りなどのかき方を例示し、わかりやすく整理されたノート作りを通して、子どもたちの思考力や表現力が高まることが期待されます。



「算数ノートをつくらう」(上 p.4～5)

④ 算数の学び方と基盤となる数学的な見方・考え方を身に付ける工夫をしています

・上巻巻末の付録には、問題解決型の学習過程と学習を進めていく際の着眼点をまとめた「学び方ガイド」、自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに伝えあったりするための数学的な見方・考え方の指針となる「算数で使いたいことば・考え方」を設けています。切り取って常時参照しながら学習を進めることが可能で、子どもたちの主体的・対話的で深い学びをサポートする役割を果たします。

1 新しい学習の前に既習内容を確認できるようにしています

- 新しい単元に入る前に、これから学習する算数の内容のもとになる既習内容を確認する「次の学習のために」を設けています。ここでは、算数の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでなく、学習の根底となる思考・判断・表現する力も確かめることができるようにしています。また、各問題には、どの学年のどの単元で学習した内容であるかを示しています。

2 子どもの苦手な内容を明示し克服できるように工夫しています

- 単元途中の「直後の練習」や単元末の「たしかめポイント」では、子どもに多く見られるまちがいの例を取り上げ、誤りを正しく修正することによって、同じまちがいをくり返さないようにすることを意図しています。
- 単元末の「わかっているかな」は、系統的な学習である算数科の特性を重視し、子どもがつまづきやすい内容を再度取り上げることによって、今後の学習の礎としてきちんと確認・定着させるようにしています。
- 単元末の「まちがしやすい問題」では、全国学力・学習状況調査や各地域で実施されている学力調査を分析して明らかになった、通過率等の低い問題を重点的に取り上げ、子どもたちが苦手とする内容を克服できるようにしています。

**わかっているかな?** こみくあいの比べ方

右の表は、2つのテントの中にある人数とその面積を表したものです。

テントの中にある人数と面積	
人数(人)	面積(m <sup>2</sup> )
A	12 6
B	10 4

どちらがこんでいますか。

1人あたりの面積で比べる。  
A  $6 \div 12 = 0.5$   
B  $4 \div 10 = 0.4$   
 のほうがこんでいる。

1m<sup>2</sup>あたりの人数で比べる。  
A  $12 \div 6 = 2$   
B  $10 \div 4 = 2.5$   
 のほうがこんでいる。

いつも数が大きいほうがこんでいるといえるかな。

1人あたりの面積  
A  $0.5\text{m}^2$  B  $0.4\text{m}^2$

あやのさんの考え方は、1人あたりの面積が大きいほうが、つまり、数が小さいほうがこんでいるといえるね。

**まちがしやすい問題**

右の表は、小屋にいるひよこの数と面積を表したものです。ななみさんは、下のようにこみくあいを調べました。どのように考えたのか、次の②、③から選びましょう。

小屋にいるひよこの数と面積	
数(羽)	面積(m <sup>2</sup> )
C	6 8
D	8 10

C  $6 \div 8 = 0.75$   
D  $8 \div 10 = 0.8$   
Dのほうがこんでいる。

「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(下 p.30)

3 これまでに学習した内容を整理しています

- 単元末の「たしかめポイント」では、単元で学習した算数の基礎的・基本的な内容を確認できるようにしています。各問題の右側には、ねらいやフィードバックの箇所も示しており、子どもが自分で振り返りながら、知識・技能の定着を図ることができるようになっていきます。
- 巻末の「……までに学習したこと」では、前学年または前巻までに学習したことの中で、当該の学年で学習するのに必要な既習内容を整理しています。既習内容の確認ができるとともに、必要に応じて、子どもが自分で調べながら学習することが可能となるようにしています。

**4年生までに学習したこと**

小数のしくみ 3年・4年  
小数も整数と同じように、10倍すると位が1けた上がり、10にすると位が1けた下がります。

小数のかけ算・わり算 4年  
①  $1.8 \times 3 = 5.4$   
②  $1.8 \times 3 = 5.4$   
③  $1.8 \times 3 = 5.4$   
④  $1.8 \times 3 = 5.4$

分数のしくみ 3年・4年  
1より小さい分数…真分数  
1と等しい分数、1より大きい分数…仮分数  
整数と真分数をあわせた分数…帯分数

いろいろな四角形 2年・4年  
四角形は、かどがみんな直角になっている四角形です。  
正方形は、かどがみんな直角で、辺の長さがみんな同じ四角形です。  
台形は、向かいあった1組の辺が平行な四角形です。  
平行四辺形は、向かいあった2組の辺が平行な四角形です。  
ひし形は、4つの辺の長さがみんな等しい四角形です。

面積 4年  
広さのことを面積といいます。長方形の面積 = たて × 横  
= 横 × たて  
正方形の面積 = 1 辺 × 1 辺  
5cm × 7cm = 35cm<sup>2</sup> 3cm × 3cm = 9cm<sup>2</sup>

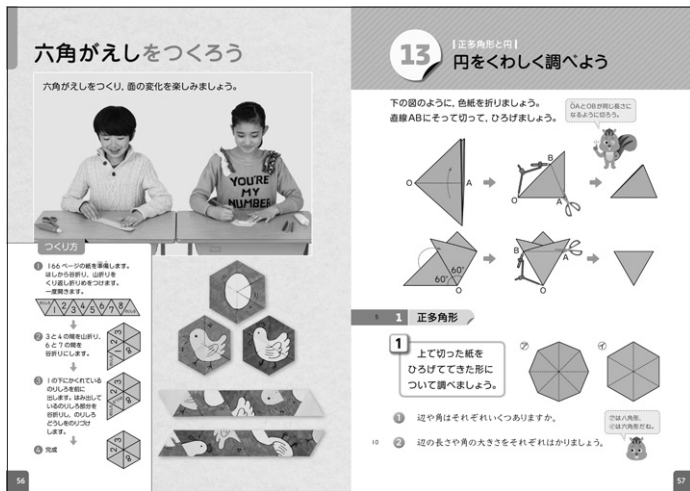
「4年生までに学習したこと」(上 p.140~141)

4 テープ図や数直線図などの図のよみ方やかき方を系統的に示しています

- 低学年から子どもが図をかいて考えるような事例を掲載し、図を用いて思考と表現を結びつけることを大切にしています。また、言葉、数、式、図などの相互の関連を整理するために、各学年の内容と関連の深い図のよみ方・かき方をていねいに扱っています。
- 巻末の「よみとろう あらわそう」では、加減、乗除や割合で使用するテープ図や線分図のよみ方、かき方についても系統的に示し、子どもがそれらを思考の道具や説明の道具として使えるようにしています。

1 新しい学習に対する学習意欲を高めるようにしています

単元の導入「単元アプローチ」は、原則見開きで構成し、新しい学習への素地づくりを行えるようにしています。操作活動、既習内容の振り返りや関連付け、身の回りの観察など、算数の学習内容に応じた多様な活動を提示しています。それによって、単元での学習の課題を自ら見つけ、意欲的に新しい学習に入ることができるよう、数学的な問題発見・解決の過程を重視した構成にしています。



「単元アプローチ」(下 p.56~57)

2 学習したことの活用や関連付けを大切にしています

「Hello Math」では、より実感的に算数を学習して、算数の楽しさやよさを感じられるようにするため、作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図っています。ここでは、どのように活動を行うのかを具体的に示すとともに、手順や準備物を掲載して、活動への意欲を高め、進んで生活に活かそうとする態度が身に付くようにしています。

新設された「Dデータの活用」領域では、与えられたデータを表やグラフに表したり読み取ったりするだけでなく、身の回りの事象について、適切な表やグラフを用いて表現したり考察したりする活動も取り上げています。

「つなげる算数」では、既習の基本的な数量や図形の性質などを関連付けて捉え直し、統合的・発展的に考えることができるようにしています。

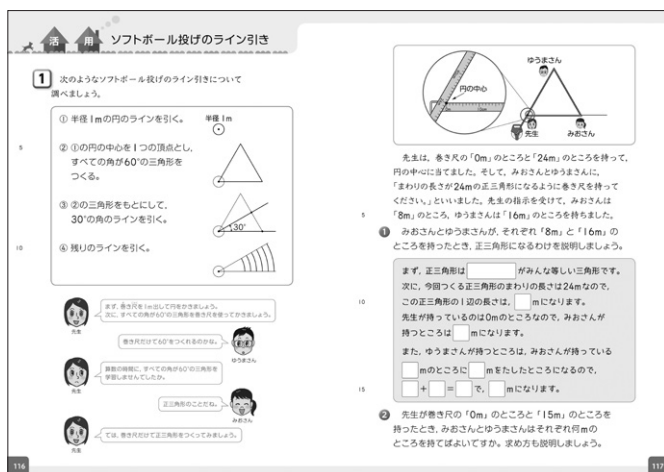


「Hello! Math」(下 p.29)

3 学習したことを横断的・総合的に活用する工夫をしています

4年以降の本編末「活用」では、全国学力・学習状況調査の類題を取り上げています。理由や方法などを説明させる記述式問題を含めた、複数の単元や領域で身に付けた知識・技能や数学的な見方・考え方を駆使して考える問題を取り上げ、数学的な思考力・表現力を伸ばすようにしています。

2年以降の下巻本編末「算数アドベンチャー」では、これまでに身に付けた知識・技能、数学的な思考力・表現力を用いて、既習内容を広げたり深めたりする探究的な問題を取り上げています。



「活用」(上 p.116~117)

4 個に応じ、個を伸ばす学習ができるようにしています

2年以降の巻末に設けた「算数マイトライ」では、本編を学習した後、子どもの実態に応じた柔軟な取り扱いができるような題材を集めています。この「算数マイトライ」は、習熟度に応じた学習指導にも利用することができます。補充的な内容と応用的・発展的な内容のバランスに配慮し、手応えがあり、数学的なおもしろさを感じ得る問題を取り上げ、算数が得意な子ども、算数をもっと学習したい子どもへの対応も図れるようにしています。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻 頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>「さあ、算数の学習を始めよう」や「教科書の使い方」などでは、算数の学習の進め方を知らせ、真理を求める学習態度が育てられるようにしています。(第1号, 第2号)</li> </ul>	上 p.2~8
本 編	<ul style="list-style-type: none"> <li>「整数の性質」では、他教科(体育科)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号)</li> <li>「平均」では、他教科(理科)と関連深い題材を取り上げ、幅広い知識が身に付くようにしています。(第1号)</li> <li>子どもの考えを表現する場面や活動する場面では、男女の平等に配慮し、男女区別のない役割を意識した場面を提示し、公平な立場で他者と接するようにしています。(第3号)</li> <li>動植物に関する題材や、環境・防災教育につながる題材を通して、生命を尊ぶ精神や、環境保全・防災に寄与する態度が養えるようにしています。(第4号)</li> </ul>	上 p.93~94 下 p.12 上 p.30~33 下 p.68,70 下 p.23~24 下 p.108~110
自分でみんなで	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程において、自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだり、数学的な妥当性を考察したりする場面を例示することにより、自他の敬愛と協力を重んじることを大切にしています。(第2号, 第3号)</li> </ul>	上 p.43~45 下 p.17~19
Hello Math	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを身の回りで活用する活動を取り上げ、算数と生活との関連が実感できるようにしています。(第2号)</li> </ul>	上 p.49 下 p.11,125
なるほど算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>先人たちが培ってきた算数に対する努力にも関心が持てるような話題を掲載し、我が国の伝統・文化に親しみ、それを大切にする気持ちが持てるように配慮しています。(第5号)</li> </ul>	下 p.72,112
巻 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>「算数マイトライ」では、一人ひとりの児童の学習状況に幅広く柔軟に対応できるような題材を集め、児童の主体性を重視し、自主及び自律の精神が養えるように配慮しています。(第2号)</li> </ul>	上 p.119以降 下 p.137以降

## 3. 上記以外に特に意を用いた点や特色

### ・特別支援教育への配慮

すべての児童が等しく学べるように、カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用しました。

- ① 文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色使いなど、レイアウトを工夫し、判読しやすくしています。
- ② 全ページにわたって文節改行を取り入れ、すべての児童が読みやすい紙面づくりをおこなっています。
- ③ 当該学年以上の漢字には、見開きごとにすべて振り仮名をつけています。

### ・道徳教育との関連

問題解決の場面では、自らの考えを発表し、他者の多様な考え方を尊重し、話し合いを通してよりよい考えをつくり上げていく展開を重視して、道徳性を養うことに配慮しています。

### ・ICTの活用

パソコンマークを付けた箇所では、デジタル教材を活用して学習を効果的に進められるように、弊社ホームページにコンテンツを用意しています。また、プログラミング教育については、「5年 正多角形と円」で取り上げています。

### ・伝統・文化への取り組み

我が国の国土や文化に対する理解を深められるような素材を多く取り上げています。

### ・防災教育との関連

防災への意識を高める題材を取り上げています。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 153	小学校	算 数	算 数	5 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	算数 510 511	小学算数 5年上 小学算数 5年下		

## 1. 編集上特に意を用いた点や特色

特 色

1

### 主体的・対話的で深い学びの実現

#### ① 1時間の学習の展開をわかりやすく示しています

- 問題解決型の学習過程を側柱を用いて具体的に示した「自分で みんなで」を各学年に3～4箇所設定しています。これらの場面では、4段階に整理した問題解決型の学習の手順や着眼点をページの右側に具体的に示すことによって、子どもたちの主体的・対話的な学びを促し、深い学びへとつなげます。
- 各学年に1箇所、問題を考える際に働かせる「**数学的な見方・考え方**」を例示し、自力による解決を促し、数学的な思考力・表現力の育成を図るようにしています。
- これらのページでは、指導者の授業づくりの参考となるように、1時間の学習の展開が板書例で見ることができるよう工夫しています。



(上 p.30～31)

#### ② 算数をどのように学ぶかをていねいに示しています

- 上巻巻頭には、「さあ、算数の学習を始めよう」(問題解決型の学習展開例)、「算数ノートをつくろう」(ノートのかき方)、「教科書の使い方」(教科書で使われているマークの説明)のページを設けています。これらのページを用いて、学年当初には、算数学習のオリエンテーションができるようにしています。また、下巻頭にも上記の内容をコンパクトにまとめて再掲載し、子どもが常に算数の学び方を意識できるように配慮しています。
- 2年以降の上巻末の付録に「**学び方ガイド**」を設け、問題解決型の学習過程と学習を進めていく際の着眼点をコンパクトにまとめています。切り取って常時参照することが可能で、子どもたちの学習を支援し、学習過程をより明瞭にする役割を果たします。また、その裏側には「**算数で使いたいことば・考え方**」を設け、自分の考えを表現したり、わかりやすく説明したりするための数学的な見方・考え方の指針となる事例を、各学年3～4つ取り上げています。



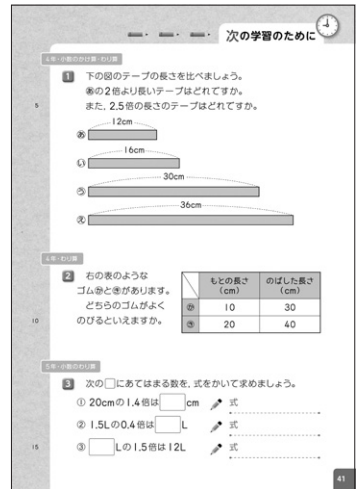
「学び方ガイド」

「算数で使いたいことば・考え方」

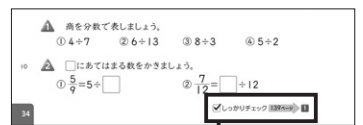
(上 巻末付録)

① 既習内容を確認し、定着を図りながら学習を進めていくようにしています

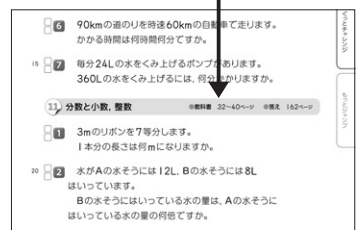
- 新しい単元に入る前に、これから学習する内容のもとになる既習事項を確認する「次の学習のために」を設けています。ここでは、算数の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでなく、学習の根底となる思考・判断・表現する力も確認することができるようにしています。また、各問題には、どの学年のどの単元で学習した内容であることを示し、算数の学習が既習の積み重ねであることを実感できるようにしています。
- 毎時間の学習では、数学的な見方・考え方を働かせ、見通しを立て既習内容との関連を意識して筋道を立てて考察する学習展開を重視しています。また、重要な内容の枠囲みを定義や性質など指導者が教える内容と子どもの考えをもとに導き出す内容で区別することによって、指導者の学習指導面への対応にも配慮しています。
- 本編の「直後の練習」では、十分な分量の問題を用意し、学習内容を確実に定着・習熟できるようにしています。また、巻末の「しっかりチェック」には、本編と同じレベルの問題を用意し、知識・技能の定着がより確実なものとなるようにしています。さらに「復習」「学年のまとめ」で既習内容を振り返る問題に取り組むことにより、学習したことの定着度の向上が図られるようにしています。
- 巻末の「……までに学習したこと」では、前学年または前巻までに学習したことの中で、当該の学年で教科書で学習するのに必要な既習内容のうち、子どものつまずきやすい内容、まちがいが多い内容を取り上げています。また、最終ページに「さくいん」を設けることで、学習したことが確かめやすい構成になっています。



「次の学習のために」(下 p.41)



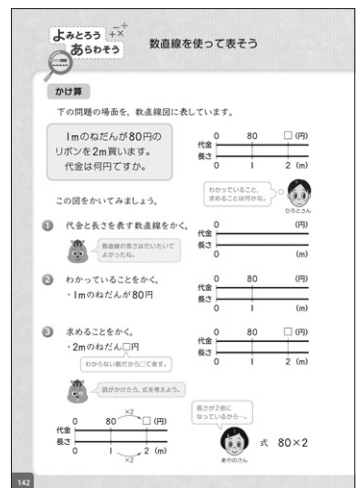
(下 p.34)



「しっかりチェック」(下 p.139)

② 子どもが苦手としている内容をていねいに取り扱っています

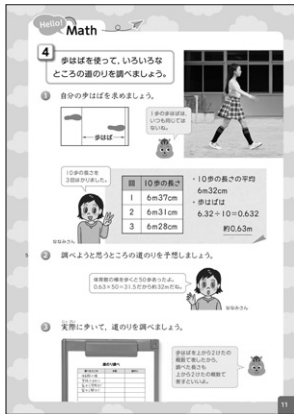
- 単元末の「わかっているかな」では、子どもがつまずきやすい内容や定着が不十分な内容を、本文とは別に再度取り上げ、今後の学習のもとになる内容として、きちんと定着・確認できるようにしています。
- 単元末の「まちがいやすい問題」では、全国学力・学習状況調査や各地域で実施されている学力調査における通過率等の低い問題を取り上げ、子どもたちが苦手とする内容への対応が図られるようにしています。
- 本編の「直後の練習」の一部に設けた「どうしてがいえるかな」や「たしかめポイント」の一部の問題では、各単元の内容を用いて理由や方法を説明させる記述式問題を扱い、数学的な思考力や表現力を伸ばすようにしています。
- 巻末の「よみとろう あらわそう」では、加減、乗除や割合で使用するテープ図や線分図のよみ方、かき方を系統的に示し、それらが思考の道具や説明の道具として使えるようにしています。加減、乗除の図は、計算の意味や計算の仕方を考えたり、説明したりするときに有効であり、数量の関係を視覚的に表すことができるので効果的です。これらの図を使いこなせるように、図のよみ方、かき方について段階を追いながらきめ細かに説明し、数量の関係を表現したり、テープ図や線分図をよみ取ったりする力をいっそう伸ばすようにしています。



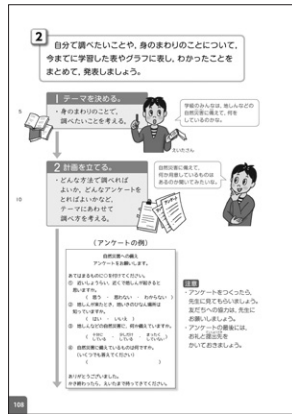
「よみとろう あらわそう」  
(上 p.142)

① 学習したことを、日常生活や学習に活用すること大切にしています

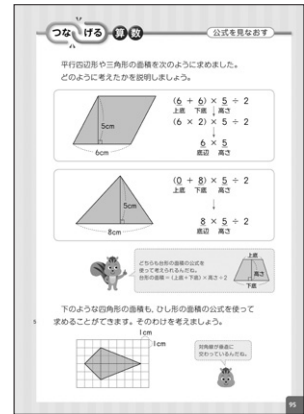
- ・「Hello Math」では、実感を伴って算数を学習することを通して、算数の価値や算数の学習の意義を感じられるようにするため、作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図っています。
- ・新設された「Dデータの活用」領域では、身の回りの事象に注目させ、データを集めて適切な表やグラフを用いて表現したり考察したりする活動に取り組ませ、統計的な問題解決のよさを感じ、生活や学習に活かそうとする態度を養えるようにしています。
- ・「つなげる算数」では、既習の内容を関連付けて捉え、統一的・発展的に考察できるようにしています。



「Hello! Math」(下 p.11)



「データの活用」領域(下 p.108)

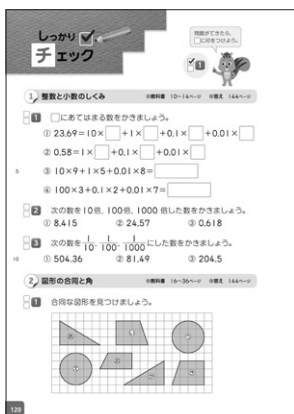


「つなげる算数」(下 p.95)

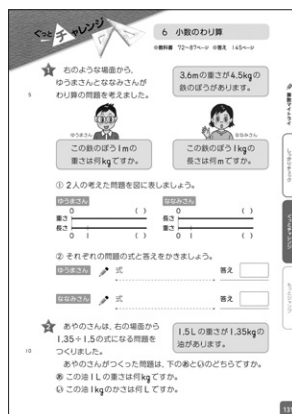
- ・4年以降の本編末にある「活用」では、複数の単元や領域を結びつけたさまざまな状況の総合的な問題を扱うことによって、算数で学習した知識・技能や数学的な見方・考え方を活用する力を高めることができるようにしています。
- ・2年以降の「算数アドベンチャー」では、身に付けた知識・技能や数学的な考え方をを用いて、学習した内容を広げたり深めたりする探究的な問題を取り上げています。

② 個に応じ、個を伸ばす学習を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感できます

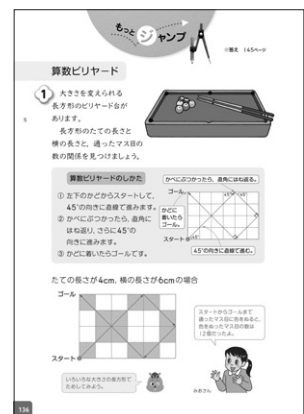
- ・「算数マイトライ」は、家庭学習や学校での予備時間などに利用できる題材を豊富に用意し、個に応じ、個を伸ばす学習の充実を図るとともに、学習習慣が身に付くことを意図しています。  
「算数マイトライ」は、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の3つのコーナーで構成しています。基礎・基本から応用・発展まで、子どもの実態に応じた柔軟な取り扱いができるようにしており、習熟度別指導等、幅広い子どもたちへのきめ細かな指導にも利用できます。
- ・「算数マイトライ」の「ぐっとチャレンジ」や「もっとジャンプ」には、手応えがあり、数学的なおもしろさを感じ得る問題を多数取り上げ、算数が得意な子どもや、算数をもっと学習したいような子どもへの対応ができるようにしています。



「しっかりチェック」(上 p.120)



「ぐっとチャレンジ」(上 p.131)



「もっとジャンプ」(上 p.136)



## 教科書の特色表

基本事項	教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、特に次の3点を柱に編修しています。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①筋道立てて考え表現するための学び方をはっきり示す</li> <li>②生活や学習の基盤となる算数の礎をきっちり築き上げる</li> <li>③算数を学ぶことの楽しさやよさをしっかり感じさせる</li> </ol> </li> </ul>	
	学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示された算数科の目標達成を目指し、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通じた学習となるようにしています。</li> </ul>	
	公正性	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材や場面の選定、記述にあたっては、内容が一方的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分吟味・検証しています。</li> </ul>	
	正確性	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定基準などに照らして正確な内容であることを検証しています。</li> </ul>	
内容・系統	発達の段階への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発達の段階を考慮した内容とし、各学年の系統性や、6年間を通じた系統性に配慮しています。また、「保・幼・小・中」の連携にも配慮しています。</li> </ul>	
	配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭、本編、巻末の構成で内容を配列し、適宜関連コラムなどを配置しています。</li> <li>各学年の配当時間の約9割で学習できる分量にしています。</li> <li>他教科との関連を考慮した教科横断的な教材を取り上げています。</li> <li>既習事項とのつながりがわかるような一覧性のある目次としています。</li> </ul>	
	学習意欲・主体的な学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭に学習の流れをわかりやすく示し、子どもの学習意欲の喚起と主体的な学びを促すようにしています。</li> <li>子どもが興味・関心を持てるような素材を選定しています。</li> <li>子どもと同じ立場の親しみやすいキャラクターの言葉が学ぶ意欲を高めます。</li> </ul>	
	多様な学習の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容をもとに解決方法を考えたり、他者と考えを振り返り話し合ったりするなど、算数科の特質を生かした主体的・対話的で深い学びを行う場面を積極的に取り入れています。</li> </ul>	
	基礎基本	思考力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>式や図、言葉などを関連付けて考え表現する活動を積極的に取り入れています。</li> </ul>
		活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを日常生活や新しい学習に活かす場面を充実させています。</li> </ul>
		現代的・社会的な課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化、防災、国際理解など、ESDにも配慮した教材を取り上げています。</li> </ul>
	その他	家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の学び方や教科書の使い方については、保護者へのメッセージも掲載し、学校、家庭、地域の連携を促しています。</li> <li>個に応じた取り扱いができる「算数マイトライ」は、家庭学習にも使用することができます。</li> </ul>
取り扱い素材		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにとって身近に感じられる素材を用いた問題を開発しています。</li> </ul>	
他教科との関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育との関連を含め、他教科の学習内容との関連を図った素材を取り上げ、効果的な指導ができるようにしています。これにより、カリキュラムマネジメントに役立つことが期待されます。</li> </ul>	
特別支援教育への配慮		<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての児童が等しく学べるように、カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用し、特別支援教育について十分に配慮しています。</li> <li>拡大教科書を制作します。</li> </ul>	
デジタル教材の活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>別途デジタル教材やコンテンツを提供する体制を整え、学習効果を高められるように配慮しています。</li> </ul>	
判型		<ul style="list-style-type: none"> <li>B5判を採用し、1～5年を分冊することにより教科書の軽量化に努め、児童の負担の軽減を図っています。</li> </ul>	
文字、印刷、製本		<ul style="list-style-type: none"> <li>当該学年以上の配当漢字には、見開き初出で振り仮名をつけています。</li> <li>書体は児童に読みやすいように開発した教科書体を使用しています。</li> <li>本文用紙は軽量化した再生紙とし、表紙は表面加工を施し、耐水性や堅牢性を考慮しています。</li> <li>植物油インクを用いて印刷し、堅牢なあじろ綴じ製本で開きやすくしています。</li> </ul>	

## 2. 対照表

内 容 単 元	A						B				C			D		内容の 取扱い	授業 時数					
	(1)	(2)	(3)		(4)		(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)			(1)	(2)			
	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ	イ アイ	ア アイ			イ アイ	ア アイ	イ アイ		
数のしくみを 1 調べよう (上巻 p10~14)		○	○																	4		
ぴったり重なる形と 2 図形の角を調べよう (上巻 p16~36)									○	○										(2)	13	
直方体や立方体の 3 かさを表そう (上巻 p38~51)												○	○	○							12	
ともなって変わる 4 2量の関係調べよう (上巻 p52~54)													○	○							2	
小数をかける計算の 5 しかたを考えよう (上巻 p56~70)				○	○	○	○														12	
小数でわる計算の 6 しかたを考えよう (上巻 p72~87)				○	○	○	○														14	
どんな計算に なるか考えよう (上巻 p88)				○	○																1	
整数の性質を 7 調べよう (上巻 p92~102)	○	○	○																	(1)	9	
分数の計算の 8 しかたを考えよう (上巻 p104~115)					○	○	○	○													11	
活用 (上巻 p116~118)																					1	
ならした 9 大きさを表そう (下巻 p6~13)																			○	○	5	
こみぐあいなどの 10 比べ方を考えよう (下巻 p16~31)															○	○					12	
分数と小数、整数の 11 関係を調べよう (下巻 p32~40)					○	○		○	○												6	
比べ方を考えよう 12 (下巻 p42~54)																○	○	○		(4)	11	
円をくわしく 13 調べよう (下巻 p56~71)									○	○	○	○								(3)	12	
面積の求め方を 14 考えよう (下巻 p76~98)																○	○				12	
割合をグラフに 15 表そう (下巻 p100~111)																		○	○	○	(5)	9
数量の関係を 16 式に表そう (下巻 p113~116)									○	○						○					3	
柱の形を調べよう 17 (下巻 p118~127)																			○	○	7	
活用 (下巻 p128~131)																					2	
算数アドベンチャー (下巻 p132, 133)																					1	
5年のまとめ (下巻 p134~136)																					3	
																					(予備時間：13時間)	計 162

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30 - 153	小学校	算 数	算 数	5 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号		※教科書名	
116 日文	算数 510 511	小学算数 5年上 小学算数 5年下		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
上 139	もっとジャンプ	1	中学2年A(2)ア (ウ)簡単な連立方程式を解くこと。	1
下 125	なるほど算数	1	中学1年B(2)イ (ア)空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること。	0.5
合計				1.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容